

2017年度 芸大・美大合格実績
＜中学生受験科＞

都立総合芸術高校

合格 **23**名

2016年	2015年	2014年	2013年	2012年
16名	18名	11名	16名	17名

女子美術大学付属高校

合格 **10**名

トキワ松学園高校

合格 **9**名

都立片倉高校

合格 **2**名

中学生受験科

中学生

日

9:00
16:00

対象：美術系高校進学を目指す中学生

1日6時間の授業で、
美術系高校受験を徹底サポート。
都立総合芸術高校に「6年連続2桁合格」。

新

美では、経験豊かな講師による実技指導を中心にしながら、入試で必須の個人面接の対策も行っています。6時間という他校よりも長い授業時間を確保することで「観る力」「描く力」を育成。同時に自分の言葉で自分の作品などについてしっかりと語れるようにすることが目標です。特に難関校の都立総合芸術高校の受験指導では、豊富なデータと分析を授業に反映しています。また、三者面談を行うなど、保護者の方々と連携を図りながら、都立高が重視する内申対策、家庭学習、筆記試験についても具体的にアドバイス。合格をより確かなものにしていきます。その成果が都立総合芸術高校に6年連続2桁合格という実績です。新美から都立総合芸術高校に進学した後も、新美に通い続け、東京藝術大学に現役合格を果たす受験生が出ていることも、手厚いサポートの成果といえるでしょう。

都立総合芸術高校／美術科合格

生徒
私は中学2年生の時に夏期と冬期の講習会に参加し、4月から中学生受験科に入学しました。新美では1度の授業で6時間の長い時間をかけてモチーフと向き合う事が出来るため、その分丁寧に観察をする事ができ、モチーフをみる力がとても養われました。よく観察して描き、先生の的確なアドバイスを受けることによって、着実に基礎の力を身につけて日に日に上手くなっていくと実感しながら、絵を描く楽しさや学ぶ事ができたと思います。高校でも先生方に教えて頂いた技術や見方、絵を描く姿勢は、とても力になっています！



服部 もも さん

講師

服部さんは、ほぼ休みなく新美に通ったことで、確実に成長していったことをよく覚えています。実技に集中して取り組みつつ、楽しさも忘れていない姿勢を見て、何とか推薦合格を！という思いで指導していました。推薦入試に対しての内申は悪くないもののやや不安が残る成績でしたが、実技や面接でしっかりとカバーし見事合格。高校1年生からも新美に通っていたいただいています。絵を描くのが好きという姿勢は変わらず伝わってきます。

保護者

小さい頃から何をしても手元は絵を描く様な娘で、それを活かして欲しいと思っていました。中学入学と同時に高校進学から美術の道に進む選択も考え始め、総合芸術高校を受験しました。同時に、早めの受験対策の実績のある美術予備校へ通う事を考え先生との距離感や雰囲気、3年生から毎週1日6時間ですっかり学べる科がある事も魅力に感じ、新宿美術学院を選択しました。毎週持ち帰る絵の完成度がメキメキと上がって行くのが、親の素人目ながらも分かり、本人も技術的な面で具体的な指導を受ける事で高みを目指す活力となっていた様でした。当初受験では推薦・一般の内容が異なるので間に合うのか心配でしたが、どちらも上達するよう配慮されたスケジュールが組まれていて安心でき、また受験直前まで手厚い指導や応援をしていただき、大変心強かったです。現在、無事に総合芸術高校に合格し、楽しい毎日を送る娘の姿を見て、無事、新美にお世話になって本当に良かったと感じています。



美術系高校進学を

目指す実技コース

都立総合芸術高校の合格者4人に1人が新美生です

美

術系高校には、都立総合芸術高校や女子美術大学付属高校などがあります。中でも都立総合芸術高校は毎年人気が高く、2017年の倍率は推薦入試で5.21倍、一般入試で2.02倍でした。狭き門ですが、絵を描くことが大好きならぜひ、チャレンジしてほしいと思います。専門的な指導を受け、しっかりと作品を完成させる経験を積めば、平等にチャンスがあるのです。

美術系高校の入試には「実技」試験が課せられます。新美の実技コースでは、1日6時間の授業を最大限に活かし、基礎から始めて1年間で合格レベルに到達できるように丁寧に指導。また、都立高校推薦入試で実施される「個人面接」のサポートも万全で、受験生一人ひとりと向き合いながら合格へと導きます。その結果が都立総合芸術高校の合格者の4人に1人が新美生」という実績につながっています。

デッサン
デッサンは、対象を観察して表現すること。美術の基本です。このデッサンが都立総合芸術高校をはじめ、多くの美術系高校入試で課題として出されます。そこで、新美では6時間の授業を最大限に活用。工業製品や自然物など様々なものを描く練習を通して「観る力」と「描く力」の着実なステップアップが図れるように指導していきます。

1学期は、鉛筆の使い方など基礎中の基礎からスタート。2週間で1枚を制作するペースで、しっかりと時間をかけて完成させることが目標です。夏期講習会から2学期にかけては、1日1枚のペースで、少しずつ課題の難易度を入試に近づけていきます。生徒たちの実技の習熟度を見ながら、アドバイスの内容を一人ひとりによって変えていくことも新美ならではの指導です。

卓上デッサン

デッサンでは、1人に1セットモチーフが渡されて、それを描きます。モチーフの組み方から試験は始まっているといえます。都立総合芸術高校では、例年4〜5個程度のモチーフが出題されています。

水彩

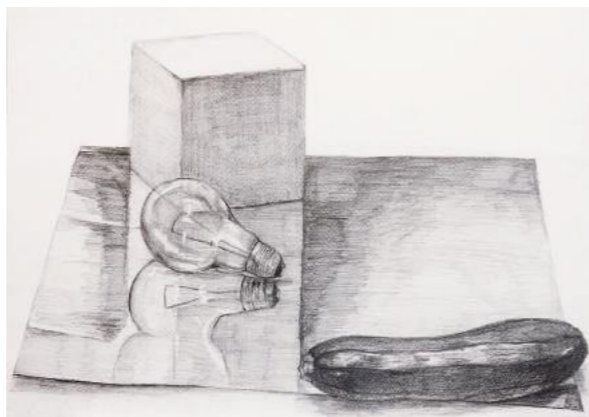
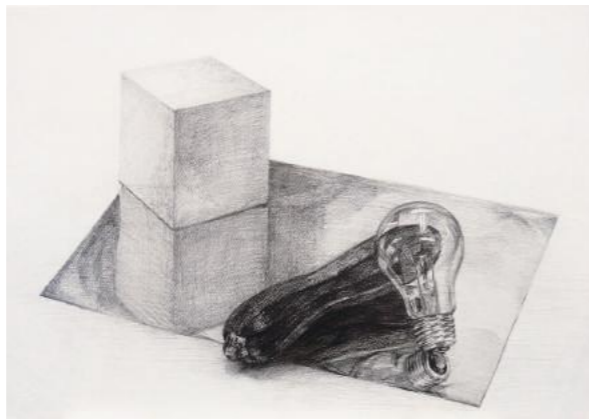
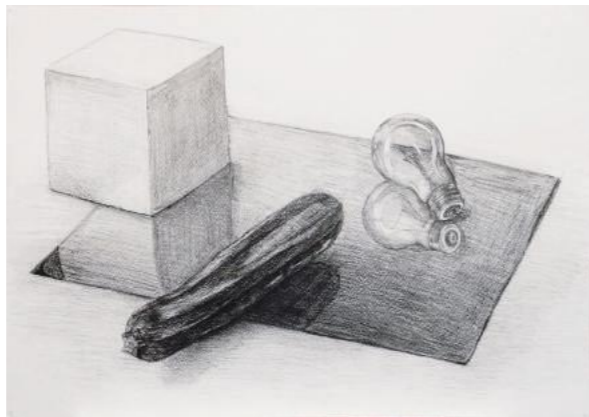
都立総合芸術高校の一般入試や女子美術大学付属高校などで実施される課題のひとつです。デッサンにも求められる「観る力」とともに、水彩絵の具という素材に慣れて「色」と「形」で表現する力を身につけていきます。水彩で使うのは、水彩絵の具という素材。鉛筆よりも扱いが難しく、慣れるまで時間がかかります。どの色とどの色を混ぜたらどんな色になるのか、どのくらいの量の水で溶かしたら的確な表現になるのか、考えて描く必要があるからです。そこで、新美では1学期からデッサンと水彩を交互に取り組み、手厚く指導。生徒一人ひとりに合った表現を見つけ、個性を伸ばしながら、推薦、一般どちらの入試にも対応できる実技力を養っていきます。

水彩モチーフセット

水彩はイーゼルを使用して制作します。都立総合芸術高校で出題されるのは、かなり大きなモチーフ。画面の中どのように収めるか、「構図」の取り方も重要になってきます。

個人面接

推薦入試や私立高校入試では必須の個人面接。聞かれるのは、志望理由、中学校生活で得たこと、高校での目標、高校卒業後の進路、美術に興味を持った理由、好きなアーティストなどです。こうした質問にしっかりと答えられるように、新美では6時間の授業の中で、専門の講師のもと、面接の指導を行って的確にアドバイス。練習を積み重ねるうち、相手の目を見て、美術を学びたいという気持ちや、自分の作品に向けた思いを自分の言葉で素直に伝えられるようになります。



美術系高校 入試情報

都立高校	募集形態	募集人数	調査書	個人面接	実技試験	合計	2017年度 実質倍率	実技検査の内容	用紙サイズ	学力検査
										実施科目
総合芸術	推薦に基づく選抜	24	500	100	700	1300	5.21	鉛筆による素描(3時間)	54.4×38.4cm(四六判の四切)	-
	学力検査に基づく選抜	56	600	400	700	1700	2.02	水彩による静物着彩(4時間)	57×44cm	国・数・英
	推薦に基づく選抜	24	360	140	500	1000	2.67	鉛筆による素描(3時間)「自画像」	45.5×37.9cm(F8)	-
	学力検査に基づく選抜	56	700	300	1000	2000	1.27	鉛筆による素描(3時間)「卓上モチーフ」	45.5×37.9cm(F8)	国・数・英・理・社
片倉	推薦に基づく選抜	24	360	140	500	1000	2.67	鉛筆による素描(3時間)「自画像」	45.5×37.9cm(F8)	-
	学力検査に基づく選抜	56	700	300	1000	2000	1.27	鉛筆による素描(3時間)「卓上モチーフ」	45.5×37.9cm(F8)	国・数・英・理・社
大泉桜	特別推薦	24	400	200	600	1200	3.58	鉛筆デッサン(90分)「卓上モチーフ」	A3	-
	推薦入試	32	○	○	○	-	1.0	作品提出(水彩画1点と鉛筆デッサン1点)	36.4×39.5×51.5×54.5cm(B3)	-
女子美術 大学付属	推薦入試	32	○	○	○	-	1.0	作品提出(水彩画1点と鉛筆デッサン1点)	36.4×39.5×51.5×54.5cm(B3)	-
	一般入試	33	300	○	150	○	1.5	鉛筆デッサンまたは水彩画(120分)	B3	国・数・英
トキワ松 学園	推薦入試	50	○	○	○	-	1.0	作品審査2点(内1点は賞状も可)	-	-
	一般入試 併願優遇	50	○	○	○	○	1.0	鉛筆デッサン(90分)(または数学)	45.5×37.9cm(F8)	国・英・(数)
	一般入試 第1回	50	○	○	○	○	1.3	鉛筆デッサン(90分)(または数学)	45.5×37.9cm(F8)	国・英・(数)

※2018年度募集要項に基づく参考資料です。詳細は各高校の募集要項で必ずご確認ください。